

CD 「"ESTA MUJER" ～この女」ライナーノーツ

八木 啓代

日本での拠点だった渋谷ジャンジャン、メキシコでの拠点だったジャズクラブ・アルカーノがなくなってしまったということをお口実に、1990年代の終わりの数年間、わたしはすっかり作家兼ラテンジャズ歌手（HAVATAMPA専属）になってしまっていた。

そんなある日、21世紀を迎えたばかりのころに、すばらしい作曲家であり、長い付き合いの友人でもあるマルシアル・アレハンドロが、私のもとを訪ねてきた。

「もういっかい、トローバ（吟遊詩人）の世界に戻ってこいよ。

CDを作ろう。俺がプロデュースするよ」

と言ってくれた。

といっても、ラテン男の言うことだ。そのまま放りっぱなしにしておくと、そのあと、ほんとにマルシアルや、やはり旧知のラファエル・メンドーサたちが、新曲を書き下ろして持ってきてくれたのではないか。

なかでも、言い出しっぺだけあって、マルシアルの曲は、すばらしいものだった。

歌うことは私の喜び、私の命、私の仕事

歌っているうちにできたのが、この女

歌っているときの私がいちばん

ほかに何を言うことがあるかしら

歌っていれば、私の唇は愛で満たされる.....

こんな歌を捧げられて、もういちど歌わない女性歌手などいてたまるものか。

そう言ったのは、ラファエル・メンドーサだったが、まさにそのとおり。俄然、わたしに火がついた。

レコーディングが決まると、今度は、メキシコとキューバの腕に覚えのあるミュージシャンたちが、次々に手を挙げて参加してくれた。

キューバの大歌手エレナ・ブルケのギタリストとして知られるフェリペ・バルデス、アルマンド・マンサネーロのピアニスト、レオナルド・サンドバル。エンリケ・ホリン楽団のフルート奏者。

というわけで、低予算の製作にも関わらず、なんともゴージャスなアルバムができてしまったわけだ。

ということで、ここに解説を記そうと思う。

1. 天使のための歌(Para Un Angel)

メキシコのまだとても若い作曲家マウリシオ・ディアスの作品。

マウリシオは、女の子と見まごうばかりのほっそりした青年ですが、早口のコミカルなスタイルの曲と、一転して、美しいメロディの詩的な曲を書きます。どちらも彼のふたつの顔なのですが、わたしは個人的には、こういう曲のほうが大好き。今度はどんな曲を書いてくれるかな。

ピアノは、メキシコ・ジャズ界の素晴らしいピアニストの一人、ペペ・モランです。

2. たしかに私たちは(Lo Cierto Somos Nosotros)

マルシアル・アレハンドロは、見た目は無骨なおっさん（失礼！）だけれど、本当に美しい詩を書きます。それをチャチャチャのリズムにしてしまったのは、ラファエル・メンドーサですが、不思議によく似合っています。

3. あふれる愛(Tanto Amor)

マルシアル・アレハンドロがプロデュースをする.....はずだったのですが、蓋を開けてみると、なにかと井勘定でルーズな彼に代わり、同じく作曲家で友人の（そして几帳面な）ラファエル・メンドーサが采配を振ってくれていました。（笑）

几帳面といっても、彼の作曲家としての才能もすばらしいものです。これは、彼のライブで聴いて、あまりにいい曲だったので、今回、是非、歌わせてほしいと頼みました。

録音直後、ラジオの公共放送のCMのBGMにも使われました。

4. 2輪のくちなし(Dos Gardenias)

英語のfeelingは、キューバではfilinと訛って発音され、音楽のジャンルとなりました。

そのジャンルの代表的なひとりでもあるキューバの女性作曲家イソリーナ・カリージョの作ったボレロ。独特の美しい旋律は、彼女の東洋趣味を物語るものなのだそうで。

ギターは、フィーリン・ギターの文句なしの第一人者フェリーペ・バルデスです。

5. 後ろにあるもの(Que Hay de Detras)

港町ベラクルスにはカリブ音楽の影響がつよく、ダンソンやチャチャなどのキューバ音楽やサルサを演奏するバンドも、古くからたくさんあります。ただ、交流が時代を経ているため、キューバのソンと似ていながら、ノリがどことなく違う、そういうソン・コステニャ（ベラクルス化したキューバ音楽）というものも。

この曲は、まさにそのベラクルス風のカリブ音楽の味わいで演奏してもらいました。フルートは、本場キューバのエンリケ・ホリン楽団出身のフルート奏者レイナルド・ペレス。トレスとベース、パーカッションは、イタリアで人気サルサバンドをやっている、ちょうどメキシコ帰省中のモンティエル兄弟が加わってくれました。

6. 涙を流すひとに(Vencida Lagrima)

メキシコはベラクルス出身の作曲家ダヴィッド・アロの作品から。本当はダヴィッド自身がギターを弾くはずだったが、どうしてもうまくスケジュールが合わない。どうしたものかとディレクターのラファエル・メンドーサが困っていたら、別の曲の伴奏のために来ていたフェリペ・バルデスが、話を横で聞いて、自分が是非弾きたいと申し出てくれた。キューバの曲ではないけれど、あまりにも美しい曲なので、とは彼の弁。ほんとに美しい曲です。

7. わたしのすべて(Todo y Nada)

グアダラハラ作曲家ピセンテ・ガリードが報われない愛をテーマに作った世にも美しい曲。数多くの歌手に歌われている、メキシコのスタンダードですが、最近、人気アイドル歌手のルイス・ミゲルが再録して、またリバイバル・ヒットしていました。

いまでは上品なおじいさまといった風貌のピセンテは、外交官の息子として生まれ、父の赴任地のキューバで育ちました。音楽好きの彼の父のところには、いつでもキューバ人の音楽家達が集まり、ピセンテ少年は彼らのセッションを、グランドピアノの下に潜り込んで聴くのが大好きだったといひます。そんなわけで、この曲も、メキシコの曲でありながら、キューバ的なサウンドを持っています。

8. 心について話そう(Hablo de Un Corazon)

オアハカ出身のシンガーソングライター、グスタボ・ロペスの言葉遊びに満ちた明るい作品。レモンに塩、というのは、メキシコ人の好きな組み合わせ。北部～中部の人なら、これにキーラがあると完璧というところですが、南東部の人はやっぱ、ラムがお好みようです。

9. 眠るあなた(Duermes)

ラファエル・メンドーサが、この録音のために持ってきてくれた曲です。よく詩を読んでみると、けっこうエロティックですね。まあ、わたしもこういう世界が表現できるようになったということ。（笑）

10. こんな女(Esta Mujer)

ほんとに、人気歌手エウヘニア・レオンに依頼で書いたのだそうですが、書いてから、いやこの曲はやっぱ八木に歌わせたいなと、わたしのところに持ってきたのだとか。ばかだなあ。エウヘニアに持っていく方が、ぜったい、印税はがっぽり入るのに。

でもたしかに、これはわたしのために書かれるべき曲でした。だって、この曲がなかったら、あなたはこのアルバムを聴くことはなかったからです。

PARA UN ANGEL
(Mauricio Díaz)

Como liberar las estrellas de mar
que en tus cuentos al cielo engalanan
como amarizar en tu luna
María marina, María del agua

Como liberarme del ojo del bosque
perdido en la flor de tu falda
cuando pones flecha en el arco
María de iris, María mirada

Como enamorarse de un angel
y no ser culpable
de haberle soñado sin alas

Como liberar en tu cuello las notas
de un arpa de rizos castaños
Como palpar tu madera,
María armonía, María del piano

Como liberar a mis dedos de verse
en las horas buscándote en vano
Como ser la pluma que pulsas,
María manía, María tu mano

Como no desear ser el cactus
que habita el desierto
que oculta tu escote del viento

Como liberar la locura de ser ventarrón
cuando pases las hojas
para hacer volar tu sombrero
María poesía, María mariposa

LO CIERTO SOMOS NOSTROS
(Marcial Alejandro)

No es un amor sin igual
no es un dramón pasional
es un cariño sencillo
y muy natural

No es una entrega total
de las que terminan tan mal
es algo suave y constante
sin tanto final

No es vanidad ni celos
ni pura complicidad
no busca bajar de los cielos
ninguna verdad

Lo cierto somos nosotros
lo cierto somos nosotros
que estamos pensando
lo mismo en el mismo lugar

No es el amor ideal
ni es totalmente casual
sólo son dos amorosos
y un mismo ritual

No es vanidad ni celos
ni pura complicidad
no busca bajar de los cielos
ninguna verdad

Lo cierto somos nosotros
lo cierto somos nosotros
que estamos pensando
lo mismo en el mismo lugar

que estamos sintiendo
lo mismo en el mismo lugar

TANTO AMOR
(Rafael Mendoza)

Te llevo aquí
dentro de mí
Placer, mi tentación.
Te quiero cerca.
LLama, bendición.

Me sé de tí
y soy feliz
cautiva de tu voz.
Me amarra tu mirada
y tu calor.

Tu cuerpo es fuerza, fortaleza,
mi planeta, mi mar.
Es fiesta, mi guardida,
carne, carnaval.

Qué más decir
si de sentir
se duele el corazón.
Con qué palabra
nombro tanto amor.

DOS GARDENIAS
(Isolina Carrillo)

Dos gardenias para ti,
con ellas quiero decir
te quiero, te adoro, mi vida.
Ponle toda tu atención
que serán tu corazón y el mío.

Dos gardenias para ti
que tendrán todo el calor de un beso,
de esos besos que te di
y que jamás encontrarás
en el calor de otro querer.

A tu lado vivirán y te hablarán
como cuando estás conmigo,
y hasta creerás que te dirán te quiero.

Pero si un atardecer
las gardenias de mi amor se mueren
es porque han adivinado
que tu amor me ha traicionado
porque existe otro querer.

VENCIDA LÁGRIMA
(David Haro)

Entre reflejos de luna
bastaba el entendimiento
para tocar tu corazón
guardado lleno de tesoros.
He comprendido que mi amor
no es todo para sus virtudes
no es corazón para un mortal.

Entre reflejos de luna
tu mirar es un consuelo
que se ha pecado de ofrecido
es porque tiene un noble empeño.
Es luz de luna tu mirar
habrá quién se ciegue de celos
no es tu sentir alas de atar.

Ven a mis brazos corazón
vencida lagrima ven a mí
con tus encantos y tus virtudes
apiadate de mí.

QUE HAY DE DETRÁS
(David Haro)

Música en su carazón,
cálido su cuerpo y húmedo
diáfana su decisión, su entrega,
su pasión, lo ama ciegamente

Y aunque el tipo un energúmeno,
un frenético cainómano,
el atrae su atención
y a nadie le hace caso. ¡ Carajo !

Esta vida me robó su mirada
y de paso le ha pillado a mi almohada
todo lo que vale un ho
mbre como soñador

De esa niña cándida,
de repente diáfana
cálida, húmeda, mágica, púrpura
lástima pregunta
qué hay de detrás ?

De aquel tipo sórdido,
de una vida cínica
frígido, mísero, tóxico,
bélico, cainómano
pregunto: ¿ y qué hay de detrás ?
¿ qué hay de detrás ?

De mi vida utópica,
ó quizás romántica
lúcida, básica, sólida, práctica
y solo bajo el gris de la ciudad
¿ y qué hay de detrás ?

TODO Y NADA
(Vicente Garrido)

Todo lo que tengo en la vida
mi ternura escondida,
mi ilusión de vivir
todo te lo diera contento
por que tu pensamiento
no apartara de mí

Pero como no me has querido
lo que te he ofrecido
no te puede importar
muere la esperanza que añoro
teniendo lo todo
nada te puedo dar....

DUERMES
(Rafael Mendoza)

Noche
tranquila esta la noche
tu cuerpo yace en calma
desnudo,duermes

Duermes
después de la caricia
una leve sonrisa
tu rostro tiene

Llueve
como desde hace horas
como llovió la dicha
como llovió el placer

Duermes
yo velo tu sueño
guardo en la boca el sabor
del fruto de tu deseo mi amor

HABLO DE UN CORAZÓN
(Gustavo López)

El jugaba al lobo ó al pastor
según cada historia y cada fin,
le encantaba ver salir el sol
mas lo oscuro dijo preferir

Hablo de un corazón
rojo melocotón;
ponle sal y limón,
dulce caña de ron.

Dizque se olvidaba de reír,
y aunque se alegraba
ante una flor
como se entusiasmo un colibrí,
le gustaba andar con piel de león.

Hablo de un corazón.....

Se especializaba en presumir
que tenía dureza mineral,
mas sólo era un casco de cristal
que estalló ante el roce de vivir.

Hablo de un corazón.....

Se sentía ajeno y animal
ante los detalles del amor,
pero su coraza de metal
se rompió al conjuro de tu voz.

Hablo de un corazón.....

ESTA MUJER
(Marcial Alejandro)

Cantar es mi placer
mi vida, mi tarea
cantando se recrea
esta mujer

Cantando soy mejor
por no decir que otra
cantar llena mi boca
de amor

Cantar es mi salud
mi reto, mi fortuna
cantando soy la luna
en plenitud

Cantando tengo voz
y tomo la palabra
cantar siembra en mi entraña
valor

Yo no soy de temporada
porque soy un temporal
ay.....

Cantar es mi placer
mi vida, mi tarea
cantando se recrea
esta mujer

Cantando soy mejor
por no decir que otra
cantar llena mi boca
de amor

天使のための歌 (Para Un Angel)

どうしたら、物語の中で、
海のとてが空を飾ることができるように
解き放してやることができるだろう
海のマリア、水のマリアよ

あなたが弓矢をつがえるとき、
あなたの山裾の花の中で見失った
森の瞳から私は自由になれるだろう
虹のマリア、視線のマリアよ

どうしたら、天使を愛することができるだろう
翼を持たないままで
夢を見ることが罪ではなく

どうしたら、あなたの首から
栗色の縮れ毛のハーブの音を
解き放つことができるだろう
どうしたら、あなたの体を鳴らすことが
できるだろう
和音のマリア、ピアノのマリアよ

むなしくあなたを捜す時のなかで
どうしたら、自分の掌をみつめなくてすむだろう
どうしたら、あなたの触れるペンになれるだろう
狂気のマリア、マリア、君の手

砂漠に生えるサボテンになりたいと
思わずにはいられない
あなたの風から逃れるために

あなたが草々の間を通るとき、
あなたの帽子を吹き飛ばす
烈風になりたいという想いから
どうしたら解き放たれるだろう
詩のマリア、蝶のマリアよ

たしかに私たちは (Lo Cierto Somos Nosotros)

ほかに比べられるような愛じゃない
情熱的な情熱でもない
それはとてもシンプルで自然な感情

すべてを捧げるといのではない
そんなのはきつと悪い終わり方をする
それはどこか柔らかく
絶え間なく、終わりもない

虚飾も嫉妬もなく
ましてや共謀するわけでもなく
天から真実が振ってくるとも思わない

ただ確かにいえることは
同じ場所で同じことを考えている

べつに理想の愛じゃない
かといってまったく成り行きというわけでもない
ただ二人は愛し合っていて
同じ習慣を持っている

ただ確かにいえることは
同じ場所で同じことを感じている

あふれる愛 (Tanto Amor)

あなたを私の心の中に抱いているわ
私の悦楽、私の誘惑
あなたの側にいたい
炎、祝福

あなたのことはわかっている
そして、私は幸せ
あなたの声に捕らわれて
あなたの視線と暖かさが私を絡めとる

あなたの体は強い要塞
私の惑星、私の海
それは祝祭、私の隠れ家、謝肉のまつり

ほかに何を言うことがあるだろう
感じるだけで十分、心が痛む
どんな言葉で呼べるだろう
これほどにあふれる愛を

2輪のくちなし (Dos Gardenias)

2輪のくちなしをあなたに
そしてあなたに言いたい
あなたを愛していると、慕っていると
我が命よ、こちらを見ておくれ
あなたの心と私の心がどうなるか

2輪のくちなしをあなたに
くちづけの熱さが伝わっているわ
わたしの口づけこそ他の誰よりも熱いだから

あなたのそばで生き、あなたに話しかけるでしょう
まるでわたしがそばにいるかのように
そして、愛していると言っているような
気さえするでしょう

けれど、あるたそがれに
私の愛のくちなしが枯れるなら
それは他の恋人のために
私の愛を裏切ったからだ
気づくからでしょう

後ろにあるもの (Que Hay de Detrás)

心には音楽が、体は熱く潤い
澄んだ決意、その献身
それをどれほど愛していたことが

それなのに、悪霊に取り憑かれた
狂信的な、邪な男が、
彼女の心をとらえてしまい、
それを誰も気にしないなんて！

このぼくの人生から、あの視線を奪い
通りすがりに、僕の枕を奪い取る
夢ばかり見ていた男への報いさ！

あの無垢で、曇りなく
熱く、潤い、魔法のような、赤紫の乙女に、
なんて残念な問いかけ、後ろに何があるのだろう？

あの下品な、皮肉屋で、冷酷で、毒があって
戦闘的で、邪な男について
ぼくは問いかける、その後ろに何が？

僕の夢想的な、たぶんロマンティックな
輝き、堅く、現実的な人生って
この灰色の都市のもつとで
そのうしろには何がある？

涙を流すひとに (Vencida Lágrima)

月の照り返しのなかで
たくさんのお宝を抱いたあなたの心に触れるには
理解するだけで十分
私の愛はあなたの美德すべてには値せず
ただの人間への心でもないのはわかっている

月の照り返しのなかで
あなたのまなざしは安らぎ
与えられすぎているほどにそれは気高い熱情
あなたのまなざしは月の光
嫉妬が目くらむ人もいるだろう
あなたの感情は何かを縛るものではない

私の腕において、愛しい人
涙を流す人よ、こちらに
あなたの魅惑と美德とともに
私を哀れんでおくれ

わたしのすべて (Todo y Nada)

私の人生にあるものすべて
私の隠されたやさしさも、生きてゆく夢も
すべてあなたにあげて、私は満足
あなたの想いが、私から離れないならば

けれど、あなたは私を愛してはいない
だから、私の差し上げるすべてのものは
あなたにとってなんの意味もない
あなたを崇める希望すら死んでしまう
すべてを持っていながら
あなたにあげられるものは、なんにもない。

心について話そう (Hablo de Un Corazón)

狼が来るよとふざけた少年がいた
そんな物語があって結末がある
太陽が出るのを喜びながら
暗闇を好んだ

そんな心について話そう
赤い桃のような
塩とレモンと
さとうきびのラム酒をどうぞ

陰口に笑うことも忘れても
花を見れば楽しくなる
まるで蜂鳥が熱狂するように
獅子の皮をまもって歩きたがる

そんな心について話そう....

鉱物のように堅いと思われても
それはただのガラスの殻
生のふれあいの中ではじけてしまった

そんな心について話そう....

愛の事々の前で
よそよそしく、野蠻に思われても
金属の楯も砕け散る
君の声の呪文の前で

そんな心について話そう....

眠るあなた (Duermes)

夜
静かな夜
あなたの体は静かになった
裸で、眠っている

お眠り
愛撫のあとで
淡い微笑みが
あなたの顔に
浮かんでいるわ

雨が降っている
しばらく前から
降り注ぐシャワーのように
降り注ぐ快樂のように

お眠り
私があなただの夢を見守ってる
唇にはまだ
あなたの愛の果実の味が
残っているわ
愛しい人

こんな女 (Esta Mujer)

歌うことがわたしの快感
私の命、私の仕事
歌っていて、できあがったのが
こんな女

歌っているときの私がいちばん
他になにを言うことがあるかしら
歌っていれば私の唇は
愛で満たされる

歌うことが私の挨拶
私の挑戦、私の幸運
歌っていればこそ
私は満ちて輝く月

歌っているから私には声がある
すべて言葉をつかまえるの
歌うことが、体の奥で
値打ちあるものを種蒔くの

私は一時の風なんかじゃない
だって、私は嵐そのもの....

歌うことがわたしの快感
私の命.....